

JSBBA KANTO

**公益財団法人日本農芸化学会
2025年度 関東支部大会**

報告者：臼井 健郎(筑波大学生物環境系)／令和7年9月12日

令和7年8月29日(金)、筑波大学筑波キャンパスにおいて2025年度関東支部大会が開催されました。気温が30度を超える暑い中でありましたが、多くの皆さま(213名：一般82名、学生131名)にご参加いただきました。

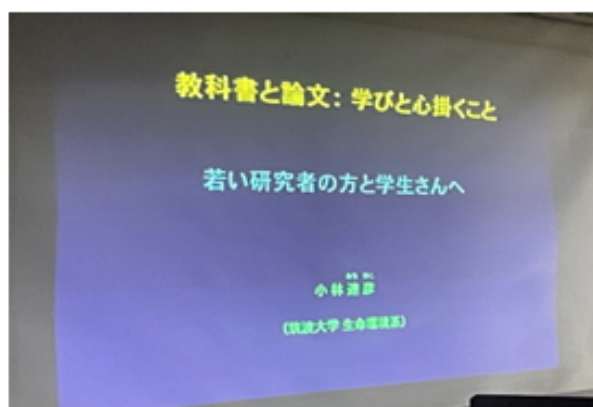
9時25分より竹中麻子関東支部長の開会の辞があり、続いてポスター発表が9時30分から11時30分にかけて行われました。予想を超えた95件の申し込みがあったため、総合研究棟A棟1階の3つの教室の会場に分かれて行いましたが、一部のポスターはポスターボードでは足りず、壁に貼って発表となりました。奇数・偶数の演題番号でそれぞれ1時間ずつの発表時間でしたが、いずれの会場でも時間一杯まで活発な議論が行われていました。

午後は会場を2H101教室に移動して口頭発表を行いました。始めに2025年度日本農芸化学会大会でご受賞された1社、並びに3名の先生方にご講演いただきました。まず農芸化学技術賞をご受賞されたハウス食品グループ本社株式会社の加藤雅博先生からは、「涙の出ないタマネギ『スマイルボール』とその関連技術」についてご講演いただき、食品生産現場で問題となる現象の解決を目指した研究から基礎的な研究へ、さらに得られた基礎的知見を新品種の開発へといった「応用から基礎」、さらに「基礎から応用」といった農芸化学の実学精神に乘っ取った研究をご紹介いただきました。続いて、農芸化学女性企業研究者賞をご受賞された、嶋津京子先生(株式会社ニッポン)、森下あい子先生(キリンホールディングス株式会社)、楊金緯先生(株式会社常盤植物化学研究所)の3名の先生方からご講演いただきました。会社が掲げる理念に基づいた研究を展開され、社会に貢献する現場をご紹介いただき、学生にとって将来のイメージにつながる発表でした。



JSBBA KANTO

13時45分からは一般講演14演題が行われました。発表9分、質疑2分の短い時間でしたが、有機化学、食品、植物、動物といった幅広い研究分野を擁する農芸化学らしい、様々な分野の研究発表が行われ、活発な質疑が行われました。



最後に昨年(2024年)の紫綬褒章受章者であられる筑波大学の小林達彦先生による特別講演「教科書と論文：学びと心掛くこと」が行われました。講演に先立ち学生には会場の前の席に移動してもらい、学生に質問し、答えてもらう交流形式で行われました。機微に富んだやり取りもあり、これから社会に出て活躍される若い研究者・学生に対する期待とエールにあふれる講演を頂きました。

白井健郎副支部長の閉会の辞の後、会場を移動して懇親会が行われました。一般60名、学生52名の方々にご参加いただき、交流を楽しみました。懇親会後半では、学生会員が発表者であるポスター発表、及び口頭発表の講演を対象として優秀発表賞の発表が行われ、高い評価を得た口頭発表部門の2名、並びにポスター発表部門の16名に対して、竹中麻子支部長より、それぞれ賞状と副賞が授与されました。



残暑が厳しい1日ではありましたが、大変多くの皆さまにご参加いただき、盛況のうちに終了することができました。

末筆ではございますが、ご参加いただいた皆さま、ご講演くださいました皆さま、関東支部大会開催・運営にご協力いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。